

「生物多様性横浜行動計画(ヨコハマbプラン)」(素案)に対する 市民意見募集(パブリックコメント)の実施結果について

横浜市では、「生物多様性横浜行動計画(ヨコハマbプラン)」の改定にあたり、平成26年9月26日に素案を公表し、市民意見募集(パブリックコメント)を実施しました。市民の皆さまからの、横浜の生物多様性に関する貴重なご意見・ご提案に感謝します。このたび、実施結果と本市の考え方をまとめましたので、公表いたします。

1 実施概要

意見募集期間	平成26年10月1日(水)から10月31日(金)まで
意見提出方法	郵送、電子メール、FAX、ホームページ、持参
素案の公表場所	素案を市民情報センター、区役所広報相談係、環境創造局政策課及びホームページ(http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/)で閲覧

2 実施結果

提出者数	48名			
提出方法	郵送9名、電子メール5名、簡易申請システム4名、持参30名			
意見数	89件			
分類と意見数	計画全般	13件	取組方針と具体的取組	18件
	計画の位置づけ	1件	市役所の率先行動	1件
	5つの重点アピール		参考資料	1件
	b-プロモーション	21件	その他	3件
	ヨコハマ生き物探検	10件		
	つながりの森	15件		
	つながりの海	1件		
	生き物にぎわう環境づくり	5件		

3 意見の分類と素案への反映状況

①素案を変更する際に、意見の趣旨を参考としたもの	8件(9%)
②計画の推進に積極的な意見や、素案を評価いただいたもの	11件(12%)
③個別事業・取組に対する意見や質問で、参考として取り扱うもの	69件(78%)
④その他、生物多様性横浜行動計画(ヨコハマbプラン)との関係が見られないもの	1件(1%)
計	89件(100%)

※ 提出された意見の概要と意見に対する考え方については別紙のとおりです。

※ 別紙では皆さまからいただいたご意見とその分類(上記①~④)、本市の考え方を掲載しています。ご意見は内容により分割して掲載しているほか、横浜市パブリックコメント実施要綱・運用指針に基づき、要約等を行っている場合があります。

提出された意見の概要と意見に対する考え方

①素案を変更する際に、意見の趣旨を参考としたもの

■ b-プロモーション

No.	意見の概要	意見に対する考え方
1	ヨコハマbプランの中では、普及啓発活動と りわけ子供へ向けての活動を主としている ようでしたが、私は生物多様性への取組に は、環境教育（子ども向け）のみならず、農 業政策や廃棄物・リサイクル政策等が深く関 わっていると考えます。そのため、bプラン では子供だけではなく対象を大人まで拡大 し、地域全体として捉える必要があるの ではないかと感じました。	いただいたご意見を踏まえ、「重点アピール 1・b-プロモーション」「(3) 関心を持って もらうためのきっかけづくり」の取組の中 に、「親子からシニア層まで多くの市民が自 然に親しみ、学ぶことができる自然体験」に ついて記載を追加しました。
2	生物多様性を守ることは、とても重要なこと だと思いますが、講義よりも実際に触れ合 い、親しみを持つ方がより身近に考えるの ではないかと思いました。以前、シーカヤック で大岡川をのぼったのですが、そういったス ポーツを通して触れ合うことから始めるこ とが大切だと思いました。	いただいたご意見を踏まえ、「重点アピール 1・b-プロモーション」「(3) 関心を持って もらうためのきっかけづくり」の取組の中 に、スポーツとの連携に関する記載を追加 しました。
3	生物多様性やヨコハマbプランについて、意 外と私達の両親や祖父母世代の人達は知ら ないのではないかと思った。小・中学生は授 業や課外学習で知る機会があるかもしれな い。大学生もある程度は機会があると思う ので、それ以外の世代にどのように関心を持 ってもらえるのか少し考えてみてはどうか。	いただいたご意見を踏まえ、「重点アピール 1・b-プロモーション」「(3) 関心を持って もらうためのきっかけづくり」の取組の中 に、「親子からシニア層まで多くの市民が自 然に親しみ、学ぶことができる自然体験」に ついて記載を追加しました。
4	市民参加による生き物調査では、主に小学生 が対象となっていますが、未就学児の親子や アクティブシニア層なども対象としてもら いたいです。 未就学児を持つ親としては、屋外での遊びの 中、自然な流れで生き物への興味がわき、親 しめればと思っていますが、親の知識や経験 には限りがあります。また、自然環境の専門 家や市民団体と接する場面がなかなかあり ません。	いただいたご意見を踏まえ、「重点アピール 1・b-プロモーション」「(3) 関心を持って もらうためのきっかけづくり」の取組の中 に、「親子からシニア層まで多くの市民が自 然に親しみ、学ぶことができる自然体験」に ついて記載を追加しました。

■ヨコハマ生き物探検

No.	意見の概要	意見に対する考え方
5	<p>横浜は市民活動が活発であるとのことで、ヨコハマbプランもうまくいきやすいのではないかと考えました。</p> <p>最近よく耳にするようになったオープンデータといった方法を使ってより多くの市民に横浜の現状を知ってもらい、市民参加を促すような取組とリンクさせるのも良いと思いました。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、「重点アピール2・ヨコハマ生き物探検」「4生き物データベースの構築」の取組の中に、オープンデータに関する記載を追加しました。</p>

■つながりの森

No.	意見の概要	意見に対する考え方
6	<p>「横浜つながりの森」エコツーリズムについて、ルールとマナーの明確化、啓発、徹底を求める。また、最近トレイルランのフィールドになりつつあり、ハイキングや散策の人たちの多いところでもランナーが急増している。早急に対策をとらないと、安全性のみならず遊歩道への負荷による周辺環境や生きものへの影響も危惧され、「原則禁止」の早期実施を求める。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、「重点アピール3・つながりの森」(2)「エコツーリズム」の取組の中に、「また、安全性や自然環境への影響に配慮したルール(マナー)について普及啓発を行うこと」について記載を追加しました。</p>

■生き物にぎわう環境づくり

No.	意見の概要	意見に対する考え方
7	<p>全体を通して、森の保全イメージが強く、草地の保全に関する言及がないです。</p> <p>生き物の中には、森と草地がセットになっているからこそ、生息できる種がたくさんいますので、そのようなことも明記し、市民に知っていただく必要もあります。</p> <p>そこで、「希少な生き物の生息する地域」にて草地環境の保全も触れるべきです。</p> <p>横浜市の景観を特徴づける谷戸環境についても同様に重点的な取組として、文章で触れるべきです。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、「重点アピール5・生き物にぎわう環境づくり」「(1)緑の10大拠点」の中に、草地や農地、またそれらが組み合わせられた谷戸環境など、多様な自然環境が残されていることについて記載を追加しました。</p>

■ 参考資料

No.	意見の概要	意見に対する考え方
8	「横浜自然観察の森における生物相」の項で、哺乳類の種数が16種となっていますが、外来種も含めた数字ではないでしょうか。外来種も含めて生き物の貴重なすみかと言っているようにも捉えられるので、確認した方がよいかと思います。現在把握している種数は、哺乳類9種、鳥類152種、爬虫類12種です。	いただいたご意見を踏まえ、「参考資料1・2 横浜市における生き物の現状」の記載を「在来種である哺乳類9種、鳥類152種、爬虫類12種」に変更しました。

② 計画の推進に積極的な意見や、素案を評価いただいたもの

■ 計画全般

No.	意見の概要	意見に対する考え方
9	今までは、あまり環境に関心がなかったけれど、もしこのまま、何もしなければ生き物が絶滅して、生態系の頂点にいる私達にも影響が出てくると思いました。自分でもできることを考えて行動してみようと思いました。	身近な環境に関心を持ち、行動することはとても大切です。「重点アピール1・b プロモーション」等で、市民の皆さまに身近な自然を楽しみながら、学び、守る取組を進めていきます。
10	私は高校時代、理数科にいて理系の中でも生物に力を入れて教育をする環境が整っており、近くの干場や水田などで学ぶ機会がたくさんありました。生命体のバランスを崩さないためにも、私たちが意識して生活していかなければと思いました。	身近な自然を楽しみながら、学び、守ることが大切と考えています。「重点アピール1・b プロモーション」等で、市民の皆さまに身近な自然を楽しみながら、学び、守る取組を進めていきます。
11	環境保全に対する取組を進めるリーダーである横浜市の取組を応援します。早く自分の地元も生物多様性基本法の地域戦略を策定してほしいと思いました。	横浜市は、全国の自治体が相互に生物多様性の保全や持続可能な利用に関する取組、成果について情報発信等を目的とした「生物多様性自治体ネットワーク」の幹事を努めています。今度も、他の自治体と連携し、取組を進めていきます。
12	とても分かりやすくまとめられており、暖かみを感じることでできる計画になっていると思います。横浜のように発展した都市において、自然と触れあえる環境を残し、新たに創造していくことは、非常に難しく課題も多くあると思いますが、今を生きる私達の責務であると思います。この計画が着実に進められることを期待します。	ご意見のとおり、今後も積極的に進めていきます。

■ b-プロモーション

No.	意見の概要	意見に対する考え方
13	何が起るかわからないから怖い、予防すべきだ”！というの理解できるものの身近な問題として、危機感を生物多様性に対して感じながら取り組むのは大変難しいことだと思う。まずは、自然を知る、触れることから始めようと、エコツアーなど参加してみようと考えています。	身近な環境に関心を持ち、行動することはとても大切です。「重点アピール1・b-プロモーション」等で、市民の皆さまに身近な自然を楽しみながら、学び、守る取組を進めていきます。
14	私は生物多様性が失われていることに非常に危機感を感じています。そして、それに対して私たち市民が早く、行動することが重要だと強く思います。 市民に生物多様性保全の重要性を知ってもらい、取組をしてもらえるように、今後の学生生活のうちに何か効果的な対策を考えたいと思いました。	身近な環境に関心を持ち、行動することはとても大切です。「重点アピール1・b-プロモーション」等で、市民の皆さまに身近な自然を楽しみながら、学び、守る取組を進めていきます。
15	横浜の環境については、大学になって地方から出てきたので、あまりよく分からないので、実際に自然を体感してそこから課題を見つけられたらと思います。	身近な自然を楽しみながら体感することで、環境の大切さを学び、守る行動へとつながると考えています。「重点アピール1・b-プロモーション」等で、市民の皆さまに身近な自然を楽しみながら、学び、守る取組を進めていきます。
16	生物多様性について、またその重要性について、ようやく一般的に認知されつつあるようですが、私のまわりにはまだまだ生物多様性って？という人が多くいます。引き続き重点アピールとして推進するbプロモーションをしっかりと進めて、生物多様性の大切さを根付かせてください。	身近な自然を楽しみながら、学び、守ることが大切と考えています。「重点アピール1・b-プロモーション」等で、市民の皆さまに身近な自然を楽しみながら、学び、守る取組を進めていきます。

■ ヨコハマ生き物探検

No.	意見の概要	意見に対する考え方
17	生き物調査の方向性について、この素案で、もっとも評価できるのは「横浜版レッドデータブック」につながる取組を進める、と宣言したことである。	「重点アピール2・ヨコハマ生き物探検」では、生き物調査の方向性として、調査結果をデータバンクの構築につなげ、データバンク構築の中で、「横浜版レッドデータバンク」につながる取組を進めていきます。

■つながりの森

No.	意見の概要	意見に対する考え方
18	自然を自分自身で直接感じることはとても大切だと思っています。いくら「環境や自然は守らなければいけない」と言われても、実感が湧かないからです。私はずっと横浜に住んでいますが、bプランなどの活動をほとんど知りませんでした。つながりの森にはぜひ一度行ってみたいと思います。	身近な環境に関心を持ち、行動することはとても大切です。「重点アピール3・つながりの森」では、地域の自然環境や歴史文化を体験し、その大切さを感じ、学ぶことで、保全することを目指す取組を進めていきます。
19	円海山に行き、横浜にも素晴らしい自然とふれあえる場所があると知りました。もっと多くの方にも知っていただきたいと思いました。公式HPなどでコースなどの情報をアップしたりするのも良いと感じました。今後、利用する際には目に付くゴミを拾おうと思います。	円海山をコアエリアとした「横浜つながりの森」は、恵まれた自然環境の中、多様な動植物が生息・生育している「横浜の生物多様性の宝庫」です。市民の皆さまにその魅力を伝えるため、「重点アピール3・つながりの森」横浜の森プローションの取組を進めていきます。

③個別事業・取組に対する意見や質問で、参考として取り扱うもの

■計画全般

No.	意見の概要	意見に対する考え方
20	マグロの数も激減していて、日本人が大好きなマグロが、いつか食卓から消えてしまうかもしれないという不安があります。そして、そんな21世紀においては、行動をとりやすいスケールで環境問題にアプローチすることが必要なのだと思います。	第1章生物多様性横浜行動計画の位置づけでは、生物多様性と私たちの暮らしは密接につながっているとしています。生物多様性に配慮した消費行動・ライフスタイルの普及を進めます。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。
21	自分たちの暮らしが何の不足もなく、快適な毎日を過ごしていけるのは、日々環境対策がなされて現状維持あるいは改善に努めている人たちがいるからだということに気づきました。行動しなければ存在する生物すべてに影響が出てしまうという焦りを感じてもらわなければいけないと思いました。	生物多様性と私たちの暮らしは密接につながっています。市民の皆様が身近な生き物とふれあうことで理解を深め、行動を起こしていくための取組を進めていきます。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。
22	私たちの生存基盤は微妙なバランスの上に成り立っており、どこか一部が崩れると、どのような影響がでるのか分かりません。だからこそ、生物多様性について理解し行動を起こす必要があると思いました。	生物多様性と私たちの暮らしは密接につながっています。市民の皆様が身近な生き物とふれあうことで生物多様性の理解を深め、行動を起こしていくための取組を進めていきます。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。

23	<p>自然を当たり前と思わずに、しっかりと保護していく重要性を改めて感じた。身の周りにおける環境の変化において、暑くなっているのはひしひしと感じる。ちょっと前までは夏でも30℃を超えたら暑いと思っていたのに、今では30℃など普通で35℃とかまで平気でいく。自分がこれから生きていくうちに、どうなってしまうのかという不安は抱いている。</p>	<p>地球温暖化が原因と考えられている気候変動は、生物の生息・生育環境の損失につながり、生物多様性に大きな影響を与えることが危惧されています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
24	<p>私自身、生物多様性に対する危機感はあまり持っていない。現在、何も考えずとも生活できる環境にあるからだと思っている。一方でその気持ちに対する罪悪感（感謝が足りない、誰のおかげで生活できているのか）も感じている。まずは、感謝の気持ちを持つことなのかもしれない。</p>	<p>生物多様性と私たちの暮らしは密接に繋がっています。市民の皆様が身近な生き物とふれあうことで生物多様性の理解を深め、行動を起こしていくための取組を進めていきます。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
25	<p>生物多様性が重要なのは分かりますが、商業地・宅地開発との兼ね合いの計画内での方針が必要なのではないのでしょうか。計画の各取組の対象は横浜市内の全域なのか、限定地域なのかの明示も必要だと思います。そもそもこの計画は開発の許認可・推進や経済振興する関係部署と調整しているのでしょうか。</p>	<p>都心臨海部や市街地等においても、生物多様性に貢献するまちづくりを進めます。生物多様性横浜行動計画は、「横浜市中期4か年計画」をはじめ関係する諸計画と整合を図りながらとりまとめを行いました。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
26	<p>各取組の現状や目標がありますが、事業費がどれだけかかるのか分かりません。重要な取組だとしても計画に事業費がなければ優先順位も判断つきません。税金の投入される事業の計画なら、事業費の明示が必要だと思います。</p>	<p>生物多様性の保全・再生・創造の取組を進めるためには、市民・企業・学校など各活動主体による実践が不可欠であり、各主体間の有機的な連携や、より一層の活性化が求められます。行政のみが計画を策定、進行管理、見直しを行うのではなく、環境に対する市民・企業の普段の関わり合いや行動、持続した取組がカギとなると考えております。市民・企業・学校など更なる活動の広がりを考慮し、事業費を記載しておりません。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

27	計画はすばらしいが財源がない。市民に新たな税金という負担はかけられない。	生物多様性の保全・再生・創造の取組を進めるためには、市民・企業・学校など各活動主体による実践が不可欠であり、各主体間の有機的な連携や、より一層の活性化が求められます。限られた財源の中ではありますが、行政のみが事業を行うのではなく、市民・企業・学校などと連携し、取組を進めます。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。
28	私の小さい頃は、森でカブトムシを捕り、川で魚を捕りました。身近な自然の中で生き物に触れあえる環境づくりを期待します。	第1章生物多様性横浜行動計画の位置づけでは、子どもの頃の「生き物に触れ、感性を豊かにする」経験は、その後の子どもの成長に大いに役立つものであり、こうした経験をこれからも子どもたちができるよう、生き物と触れ合える場所を守り、またそういった機会を増やしていく必要がある、としています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。

■ 計画の位置づけ

No.	意見の概要	意見に対する考え方
29	横浜市は今まで戦後と比べて急激な人口増加や緑の減少、世界的にもトップクラスの温暖化という現状があるからこそ、横浜bプラン等のしっかりとした環境対策が行われているのだと思いました。世界へ様々な情報を発信する都市横浜だからこそ積極的に環境問題へ取り組む必要があるのではと考えます。	第1章生物多様性横浜行動計画策定の意義では、わが国で最大規模の基礎自治体として、多くの企業が立地する都市として、生物多様性の取組を推進し、日本の都市全体での取組につなげ、そうした取組を国内外へアピールしていくとしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。

■ b-プロモーション

No.	意見の概要	意見に対する考え方
30	横浜市は積極的に環境問題、生物多様性問題に取り組んでいるのにも関わらず、それらの活動について知らない人がたくさんいると思います。もっとこの活動をより多くの人に伝えてく必要があるのではないかと思います。	「重点アピール1・b-プロモーション」では、様々なイベントや普及啓発活動の場を活用して横浜市の取組をアピールしていくとしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。

31	<p>生物多様性の恵みを私たちは、用事にあわせて活用している。そう考えるとこれまで以上に、環境を重視しなければならないという点を改めて認識しました。私を含めそういった生物多様性の取組を“知ろうとしない”人が多いのではないかと、それをどう改善していくのかという点が今後の課題の1つなのではないかと感じられました。</p>	<p>「重点アピール1・bプロモーション」では、無理に学術的に考えず、まずは「身近な自然を大切にすること」から出発すべき、としています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
32	<p>温暖化や気候変動のように生物多様性についても、もっと興味を抱いていくべきだと感じました。</p>	<p>「重点アピール1・bプロモーション」では、地球温暖化対策としての省エネ行動は、ライフスタイルとして定着しました。これからは、身近な自然に関心を持ち、行動することをライフスタイルの一部として取り入れてもらえるようにしていく、としています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
33	<p>生物多様性に対する意識づけについてですが、学校や地域単位で、子どもやファミリー世代に伝えていくことが重要だと思います。企業のCSRとして、事業とは別枠で環境に配慮することが必要かと思いました。</p>	<p>「重点アピール1・bプロモーション」では、市民団体・企業・学校などと連携して取組を進めていくとしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
34	<p>自然が及ぼす影響についてまだ知らないことが多いために、なかなか活動に参加できないこともあるかもしれません。まずは、自然に触れ、感じることからその活動は始まると思います。</p>	<p>「重点アピール1・bプロモーション」では、市民の皆さまに身近な自然を楽しみながら、学び、守る取組を進めていくとしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
35	<p>子どもたちにアピールすることはとても大事だと思います。しかし、お金がかかるわりに多くの人々にメッセージが伝わらないのではと思います。小学生の給食にメッセージを入れて解説するなど、より広く多くの人に知ってもらいたいです。</p>	<p>生物多様性の重要性を伝えるbプロモーションを進めるにあたっては、スポーツや健康づくり、芸術など多岐にわたる分野との連携により進めていきます。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
36	<p>生物多様性の問題の難しさは、一般の人が実感することが困難なことです。何も対策を講じない場合、その結果がどうなるのか予想しづらいことがあるかと思っています。</p>	<p>生物多様性と私たちの暮らしは密接につながっています。市民の皆様が身近な生き物とふれあうことで生物多様性の理解を深め、行動を起こしていくための取組を進めていきます。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

37	<p>つい最近まで環境系の活動をしていて、鶴見川の上流に行ったり、学校校内の環境保護の活動をしたりしていましたが、一人の力だけでは、絶対に変えられないし守れないものが環境なのだと何度も思い知りました。本当に環境に関心のない人への問題提議が弱いように感じました。市民の巻き込みをもっと促進していただければ良いと思います。</p>	<p>平成 25 年 7 月に実施した「環境に関する市民意識調査」では、生物多様性の危機に対して、「とても身近な問題だと思う」「ある程度身近な問題だと思う」という回答が 51.6%であり、約半数に留まっています。生物多様性の大切さを理解し、保全行動へとつなげるため、スポーツや健康づくり、芸術など多岐に渡る分野と連携していくことで関心を持ってもらうためのきっかけづくりを進めます。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
38	<p>ヨコハマ b プランですが、横浜駅や関内の方でのイベントは見つからなかったのので、人を集めやすい場所で、できるものは限られてしましますが、スタジアムとか緑豊かな場所であったら関心を持ちやすいのではと思いました。</p>	<p>「重点アピール 1・b プロモーション」では、関心を持ってもらうきっかけづくりとして、自然に親しめる場所を積極的に広報し、自然体験イベントをこれまで以上に推進していくとしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
39	<p>子どもたちの体験学習について、横浜市独自の活動を立ち上げるだけでなく、既に 20 年の実績があり、横浜市内でも多くのグループが活動し、全国レベルでノウハウも積み上げている「こどもエコクラブ」のような活動を市としてしっかり評価し活用することを計画に織り込むべきである。</p>	<p>これからの生物多様性の取組は、何よりも市民や企業の主体的な取組が大切です。「重点アピール 1・b プロモーション」では、生物多様性に積極的に取り組む市民団体等を支援、連携を深めていくとしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
40	<p>子どもたちが参加できるエコツーリズムについて、「ツーリズム」という呼称は再考すべきである。エコツーリズムが定着している場所では、この言葉は極めて厳格に使われている。横浜の子どもたちの生活圏やその周辺にある身近な樹林や水辺での活動や触れ合いとは意味合いが異なる。また、エコツーリズムを支える受け入れの施設や体制も整っていない。言葉が似合わないだけでなく、エコツーリズムという言葉のもとでは、行政主体の不必要に大きな行事につながりがちである。「身近な緑地や水辺の自然体験」というわかりやすい表現で十分であると考えます。</p>	<p>エコツーリズムは、訪れた人々が地域の自然や文化について知識を有するガイド等から案内を受け、自然環境の保護に配慮しながら地域の自然や文化とふれあい、これに関する知識及び理解を深める取組です。エコツーリズムの推進にあたっては、保全と利用のバランスを常に配慮しながら進めることとしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

41	<p>市民団体等・企業・地域・学校などの連携・交流の場づくりについて、市民活動の推進や交流の機会という、行政では得てして、団体や人を集めて活動紹介の発表で参加者の動員をするような企画になりがちである。本当に市民団体のニーズにこたえる支援であれば動員は必要ないはず。また、企画の時期が集中し予告期間も短い。年度初めに開催時期と内容を予告し、少なくとも3ヶ月以上の予告期間を徹底するなど配慮を求める。</p>	<p>生物多様性の取組を進めるためには、活動団体の相互の情報交流や連携が必要と考えており、連携・交流の場づくりを推進していきます。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
42	<p>子どもたちが主役とありますが、支える大人にも自然体験が不足している現状もあると思います。そちらも課題に加えた計画になると、より良いものになると思います。</p>	<p>「重点アピール1・bープロモーション」では、生物多様性や地球温暖化に関する指導者の支援についても合わせて取り組むとしています。また、「重点アピール2・ヨコハマ生き物探検」では、身近な生き物や緑などに関心を持ち、改善に生かしていくための生き物に関する知識の向上に取り組むこととしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

■ヨコハマ生き物探検

No.	意見の概要	意見に対する考え方
43	<p>データバンクに関連することですが、過去のデータを電子化するのは数年掛かり、これらを活用しても得られる知見は無いとの意見があります。素案にもありますデータバンクは何を想定されているのかなと感じました。</p>	<p>「重点アピール2・ヨコハマ生き物体験」では、データバンクは生物多様性の現状や変化を見える化し、市民が楽しみながら利用できるようにすることで、環境問題を考えるきっかけにつなげていくことを目指していきます。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
44	<p>生きもの調査の方向性について、調査、データや資料の集積、研究、展示などの啓発、環境教育を一体的に、市民にとってわかりやすく、使いやすい仕組みであれば、なぜ「横浜の自然史博物館」をこの行動計画（地域戦略）の目玉にしないのか。これは、新たな箱物を作るという意味での博物館でなくても、既存の施設や機能をバーチャルな概念でつなぎ、運営の責任を一元化することで、新しい形の博物館を実現しようとする。</p>	<p>「重点アピール2・ヨコハマ生き物探検」では、データバンクは情報通信技術の視点を取り入れ環境の現状や変化を「見える化」することで、環境問題を考えるきっかけにつなげていくことを目指すとしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

45	<p>生きもの調査の方向性について、誰が、どこで、調査やデータの管理、あるいはそれにもなう研究や啓発をするのか、場所や人のイメージが全く見えない。博物館、と位置づけるだけで、市の生物多様性保全に関する意思が、はっきり市民に伝わるのではないか。調査や保全活動にあたっている市民が、調査の指導、データの集積、研究、啓発や行事の実施という目的ごとに、市の施設をあちこち回らないといけないような仕組みでは困る。</p>	<p>「重点アピール2・ヨコハマ生き物探検」では、データバンクは環境省のシステム等を活用するとしています。また、情報通信技術の視点を取り入れ環境の現状や変化を「見える化」することで、環境問題を考えるきっかけにつなげていくことを目指します。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
46	<p>生きもの調査の方向性について、市が独自に調査を増やすことには疑問がある。既に意識の高い、活発な活動をしている市民団体は、環境省のモニタリング1000里地調査のような活動を行っており、それが横浜の保全管理の基礎データや調査方法の基準になっている。モニタリング1000と調査方法やデータのフォーマットを合わせるなど、実際に調査活動をしている市民にとって二重三重の負荷をかけることのないような現場の事情に配慮した方法をとるべきである。</p>	<p>「重点アピール2・ヨコハマ生き物探検」では、生き物調査は市が実施するものだけでなく、国や市民団体などによる生き物調査を含め、環境省のシステム等を活用したデータバンクにより、情報の一元化を進めることとしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
47	<p>市民参加による生き物調査について、環境保全にかかわる市民活動において、生きもの調査や啓発を担う人材の重要性に言及したことは評価できる。それを進めるためにも、博物館機能の設置やモニタリング1000などとの統一化をしっかりとるべきである。</p>	<p>「重点アピール2・ヨコハマ生き物探検」では、生き物調査は市が実施するものだけでなく、国や市民団体などによる生き物調査を含め、環境省のシステム等を活用したデータバンクにより、情報の一元化を進めることとしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
48	<p>市民参加による生きもの調査について、これまでの市民への意識啓発を主たる目的とした調査は、そのデータや成果の評価もない。しかし、それが適切に継続的に行われれば、専門的な調査と並んで広域で生活にも密着した活動になり得る。この点では、平塚市博物館に長年にわたる先例がある。単に形を真似るのでなく、博物館の機能を関係者が認識する意味でも助言を受け、横浜に定着させるべきである。</p>	<p>「重点アピール2・ヨコハマ生き物探検」では、市民が身近な自然や生き物に関心を持ち、自ら調べ、改善に活かしていくことを必要と考え、生き物に関する知識の向上に取り組んでいくこととしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

49	生きものデータバンクの構築について、データの管理と活用には、単に一定の基準で公開や秘匿を行うだけでなく、実際にそのデータをフィールドで活用するための専門的な助言や指導が必要である。利活用の目的によって、対面での相談は必須であり、その意味でも、博物館的な学芸員によるサポート体制を実現されたい。	「重点アピール2・ヨコハマ生き物探検」では、データバンクは公開と活用を前提としつつ、希少な生き物の情報などについては慎重に取り扱うこととしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。
50	いきものと共生する手段と知識を伝えるために、蓄積したデータを容易に活用できるようにする、いきものの毒についての解毒方法の対処方法など、正しい情報があれば、安心していきものと触れ合うことが出来ると思います。方法としては、bプランにより収集したデータを公開し、身近でいつも持っている携帯電話などで目の前のいきものが危険なのかを調べられるようにする。そういった情報提供するような仕掛けをITが提供できるよう研究する。	「重点アピール2・ヨコハマ生き物探検」では、データバンクは情報通信技術の視点を取り入れ環境の現状や変化を「見える化」することで、環境問題を考えるきっかけにつなげていくことを目指すとしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。

■つながりの森

No.	意見の概要	意見に対する考え方
51	最近、瀬上市民の森を知り、その他様々な自然が横浜にあることを知ることができました。横浜は都会の部分と、山、川、海といった自然の部分が共生している素晴らしい土地だと最近は感じました。	瀬上池は横浜つながりの森において最大の池であり、水辺と樹林地が一体となった良好な自然環境と豊かな生物多様性が残る貴重な場所です。「重点アピール3・つながりの森」では、市民との協働による維持管理を行う等により、瀬上池の生物多様性を守る取組を進めていきます。
52	水と緑を守る・育てるについて、緑地や水辺における、ルール、マナーの明確化、統一、そして啓発の徹底をお願いしたい。フィールドの特徴ごとに若干の調整はあり得るとしても、行政あるいは管理者は、ルールやマナーを表示し、あるいは柵を設置するなど生物多様性に対する保護の姿勢を示すべきである。	「重点アピール3・つながりの森」では、「保全と活用のバランス」を保ちながら、「生き物の多様性を大切にする」、「自然を楽しむ」の2つを柱として、取組を進めるとしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。

53	<p>水と緑を守る・育てるについて、市民の森愛護会や、水辺愛護会などには、草刈や清掃による美化や安全には関心を示すが、生物多様性の保全に関する意識が浸透していない団体もある。最前線の保全活動でもあり、繰り返し、繰り返しの啓発や講習を行ってほしい。</p>	<p>「重点アピール3・つながりの森」では、森づくり活動や愛護会など、つながりの森で活動をしている様々な団体どうしや拠点施設の連携、情報の一元化を図るとしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
54	<p>瀬上池の生物多様性を守るについて、瀬上池を中心とした瀬上市民の森、そして瀬上沢の生物多様性を守るにあたって重要な点は、以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・池だけでなく、横浜最大規模の谷戸である瀬上沢として、市民の森のみならず、一体的な保全管理を行う必要がある。谷戸の生きものは、人の決めた区画や管理単位を意識して移動するわけではない。谷戸全体を一つの保全管理方針で維持していくべきである。 ・市民の森の保全の当事者であり地権者である市民の森愛護会の生物多様性に対する意識啓発を、行政と市民の働きかけで実現すべきである。 ・連絡のとれない地権者の樹林地などは管理の手が入りにくく、安全、治水、生物多様性など多くの問題を生じている。例えば、連絡がつかない場合は、行政権限で一定の管理活動ができるような措置を市民の森の契約などに織り込む必要がある。 	<p>瀬上池は横浜つながりの森において最大の池であり、水辺と樹林地が一体となった良好な自然環境と豊かな生物多様性が残る貴重な場所です。「重点アピール3・つながりの森」では、市民との協働による維持管理を行い、瀬上池の未来づくりに向けた取組を推進するとしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
55	<p>外来種の対策について、既につながりの森全域に、アライグマ、クリハラリス（タイワンリス）、ガビチョウなどが拡がり、部分的な駆除や対策では目に見える効果は期待しがたい。少なくとも、つながりの森全域を最小単位とする程度の大規模な対策をとり、外来種駆除においても、つながりの森をモデル地区として、行政と市民のネットワークによる展開を求めたい。樹林地や水辺だけでなく、住宅地や市街地の公園も対象にすべきであり、自治会、住宅管理組合、商店会までを含めた活動にしていくことが望まれる。</p>	<p>「重点アピール3・つながりの森」では、生物多様性の危機の原因の一つである外来種について、対策を推進するとしています。緑地などの維持管理において、必要に応じて対策を実施し、外来種について正しく理解してもらうために、普及啓発を推進します。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

56	<p>体験フィールドの活性化について、市が管理する3つの施設の活用や連携が重要であることは支持できるが、その一方で、フィールドの整備の差が拡大し、ボランティアや市民が便利で設備の整った場所に吸引されるなど、市民の森など自然体験の利活用が可能ではあるがインフラの不足したフィールドとの落差が大きくなることを懸念する。</p>	<p>「重点アピール3・つながりの森」における拠点施設が、それぞれの特徴を生かして、連携することにより、「横浜つながりの森」の利用を促進し、支えていく人を生み出す流れをつくるとしています。また、森づくり活動や愛護会など、つながりの森で活動をしている様々な団体どうしや拠点施設の連携、情報の一元化を図るとしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
57	<p>体験フィールドの活性化について、3施設で育った人材や来園者をそこで囲い込まず、円海山緑地やつながりの森全域に循環、拡散する施策も合わせて推進すべきである。その一つの手段として、施設間のみならず、円海山緑地、つながりの森における市民活動ネットワークを市民と行政で作成し、合同で行事を実施するなどの動きを立ち上げるべき。</p>	<p>「重点アピール3・つながりの森」における拠点施設が、それぞれの特徴を生かして、連携することにより、「横浜つながりの森」の利用を促進し、支えていく人を生み出す流れをつくるとしています。また、森づくり活動や愛護会など、つながりの森で活動をしている様々な団体どうしや拠点施設の連携、情報の一元化を図るとしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
58	<p>「横浜つながりの森」エコツーリズムについて、エコツーリズムという表現は見直すべきである。また、人々を集めるには、自然体験に参加する市民に対してはもちろん、その場所を保全するボランティアのためのインフラ整備も必要である。</p>	<p>「重点アピール3・つながりの森」では、市民との協働による維持管理を推進します。インフラ整備につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
59	<p>横浜に生息する生きもの体験施設の整備について、金沢動物園を、円海山など地域の生きものを学ぶ施設として整備することは評価できる。その意味でも、ののほな館を横浜の自然史博物館の展示機能として活用することも重要。</p>	<p>「重点アピール3・つながりの森」では、金沢動物園の再生において、円海山等地域の生き物を身近に体感でき、人の暮らしと生物多様性の関わりを学ぶことができる施設の整備を進めることとしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
60	<p>横浜に生息する生きもの体験施設の整備について、園内だけでなく、実際のフィールドと連携した体験行事や観察会などで市民団体との連携を深めるべき。非公開で保全飼育されているカヤネズミと、その生息場所である瀬上沢をあわせて観察することなど。</p>	<p>第5章将来像の実現に向けた4つの取組方針と具体的取組では、金沢動物園の再整備にあたっては、様々な環境技術の紹介、市民と協働した環境保全事業を推進することとしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

61	<p>人材の育成について、ボランティアやリーダーの育成というと行政の事業として行われるイメージが強いが、舞岡公園の「谷戸学校」や瀬上市民の森の「谷戸のボランティア塾」など、市民団体による育成が行われている事例もある。市の育成も、このような市民による育成と連携させ、また実習や座学などのカリキュラムを共用するなどの方法で、費用をかけず効果的なカリキュラムの運営が可能である。</p>	<p>「横浜つながりの森」を将来につなげていくためには、多様な人材が必要です。「重点アピール3・つながりの森」では、学校での環境教育や拠点施設の連携、エコツアーの活用など様々な手法を通し、人材育成を推進するとしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
62	<p>何度か円海山をトレイルランニング、ハイキングをしています。日常見かける事のできない、リス、トンビ、虫などを見る事ができ、空気もキレイでとても気持ちが良くなります。横浜市民でありながら、このような素晴らしい森がある事自体知らない人も多いと思います。</p>	<p>第5章将来像の実現に向けた4つの取組方針と具体的取組では、森に関する情報発信として、市民の森・ふれあいの樹林のガイドマップを作成し、市民が気軽に森を訪れ、楽しむ環境づくりを推進するとしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

■つながりの海

No.	意見の概要	意見に対する考え方
63	<p>海や川をいかした豊かな環境のあるまちづくりには賛成です。自然と人間が共生できる地域づくりを海の公園では実現して頂きたいと願います。</p> <p>まずはアマモエリアを八景島側に限定し、マリンスポーツや海水浴客が遊べるようにゾーニングして共生を促して頂くことを要望します。また、アオサの廃棄処理を堆肥化や飼料化するなど、企業との連携を推進し、環境分野の技術・商品による新たなビジネスモデルの構築による経済活動の活発な展開や、生物多様性につながる環境分野の取組の促進につなげていって欲しいと願います。</p>	<p>金沢沿岸部は、海の公園、ベイサイドマリナーや八景島等のレジャー施設が多く、身近に生物多様性を感じることができるエリアです。多くの市民の皆様が自然の海を感じられる場所を目指して、市民団体等と連携した海づくり活動を推進します。</p> <p>いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

■生き物にぎわう環境づくり

No.	意見の概要	意見に対する考え方
64	<p>緑の10大拠点について、地権者の理解と協力により、樹林地や水辺を維持することが重要である。それに加えて適切な維持管理が、生物多様性の実効ある保全につながる。そのためにも、地権者や愛護会などに対する生物多様性保全の啓発が重要である。</p>	<p>緑の10大拠点を中心とした樹林地や農地などは、横浜における生き物の貴重な生息・生育地となっております。ご意見については、「重点アピール5・生き物にぎわう環境づくり」の取組を進める中で参考とさせていただきます。</p>
65	<p>緑の10大拠点の周辺について、つながりの森周辺では、計画的に開発された比較的大規模な住宅地や団地が広がっており、その緑地が生きものの移動する回廊になり、残された斜面地に希少種を含む在来の生きものの姿が見られる。しかし、回廊が外来種を拡散することになったり、団地の管理組合の管理作業が生きものに配慮できなかったり、という問題もある。このことから、自治会や、住宅管理組合、公園愛護会などへの生物多様性の保全啓発が是非必要である。</p>	<p>第5章将来像の実現に向けた4つの取組方針と具体的取組では、森づくり活動に取り組む団体のスキルアップにつながる研修や森づくりボランティアの登録者を対象とした研修を実施するとしています。また、市民の森などの樹林地を対象に、維持管理の技術指針である森づくりガイドライン等を活用し、生物多様性の保全や利用者の安全確保のため、愛護会などと連携して森づくりを進めるとしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
66	<p>希少な生きものの生息、生育する地域について、横浜市のレッドデータブックの整備と平行して、自然度が高く、在来あるいは希少な生きものの多い地域を「横浜ホットスポット」というような位置づけで、地権者や市民などステークホルダー間の調整において、他の地域よりも生物多様性に配慮した判断や政策形成ができるような指定制度も考えるべきである。</p>	<p>「重点アピール3・つながりの森」では、保全と利用のバランスを常に配慮しながら取組を進めることとしています。その上で地域の自然環境や歴史文化を体験し、その大切さを感じ、学ぶことで、次代、次々代まで「横浜つながりの森」をつないでいくことを目指しています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
67	<p>緑の多い場所（森林公園のような）を少しでも残し、できれば増やしてほしいと思います。多くの生物を守ると同時に地球温暖化の進行を遅らせることにもわずかながらつながると思います。</p>	<p>「重点アピール5・生き物にぎわう環境づくり」では、生物多様性を育む場づくりとして、みどりアップ計画を主体とした継続的な取組を進めることとしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

■ 取組方針と具体的取組

No.	意見の概要	意見に対する考え方
68	もっと具体的に市民ができることを提示してほしいと思いました。外来種は特にペットが野生になってしまったものなのでペットの講座（飼い方等）の開催、外来種を見つけたときどうしたらいいかのマニュアルをつくるべきだと思いました。	第5章将来像の実現に向けた4つの取組方針と具体的取組では、在来の生き物の生息・生育環境を守るため、外来種に関する普及啓発を進めることとしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。
69	私の祖母の家の付近にアメリカザリガニと日本種のザリガニの2種類がいたが、数年たった今、アメリカザリガニしかいません。外来種が増えることは、日本種の減少による“日本らしさ”が薄れることと考えました。	第5章将来像の実現に向けた4つの取組方針と具体的取組では、在来の生き物の生息・生育環境を守るため、外来種に関する普及啓発を進めることとしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。
70	外来種については、あまり耳にしたことがないので、国全体で意識が低くなっているのではないかと思います。	第5章将来像の実現に向けた4つの取組方針と具体的取組では、在来の生き物の生息・生育環境を守るため、外来種に関する普及啓発を進めることとしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。
71	冬季に水田に水を張り3年程経てば生物達の生命力によって我々を楽しませてくれる大切な環境づくりの主体となりうると思います。水を張るだけの指導を施す事で、都市レベルの観点から観れば、田んぼは巨大な庭でありピオトープで有り続けてくれるのではないのでしょうか。開発前の大地に戻す事は出来ませんが、人間と生物が共存出来る優しい文化と環境を、後世に継承する為に必要な事だと考えています。	生き物の生息生育環境としての田んぼの活用について、引き続き検討を行っていきます。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。
72	金沢沿岸部にあるふなだまりを対象とした取組を位置付けではどうか。「親水性が高い汽水域である」「横浜市無形文化財に指定されている祇園舟が執り行われており、地域住民の憩いの場となっている」「すでに大学やNPOが活動フィールドとしている」これらの理由から、当該地域の取組内容としてふなだまりについて記載はできないのでしょうか。	生物多様性と地域の伝統文化は密接につながっており、市内では、数多くのお祭りや伝統芸能などが今に伝わっています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。

73	<p>「外来種への対策」の項で、被害防除だけでなく、計画防除についても取り組まなくてはいつまでたっても被害防除は終わりません。現状では手遅れになるので積極的に計画防除にも取り組むべきです。また、外来生物法に基づきタイワンリスについては県の防除計画がありません。タイワンリスの生活被害も生態系被害も年々増えています。市で防除計画を策定するべきです。</p>	<p>第5章将来像の実現に向けた4つの取組方針と具体的取組では、アライグマやタイワンリスによる被害への対策として捕獲支援の取組を進めるとともに、外来種としての普及啓発を進めることとしています。</p> <p>いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
74	<p>関心を持ってもらうためのきっかけづくりについて、市民の森などの場所の広報にあたっては、以下の点を同時に配慮すべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利活用にあたってその土地や施設のおかれた環境を配慮したルールやマナーの明確化、啓発、ならびに徹底・受け入れが可能となるようなインフラの整備（トイレ、雨天時の避難場所など） ・市の広報の限界を考慮した伝わるメディアの選択（タウン誌やSNSの活用） 	<p>第5章将来像の実現に向けた4つの取組方針と具体的取組では、市民の森の広報にあたっては、マナーやトイレの位置を示したガイドマップの作成等を行っていくとしています。</p> <p>いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
75	<p>谷戸環境の保全を通じた生物多様性の理解促進について、一方で、身近な谷戸の景観を残している場所は、市民の森のような形で保全されており、特に以下3点が重要になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利活用にあたってその土地や施設のおかれた環境を配慮したルールやマナーの明確化、啓発、ならびに徹底 ・受け入れが可能となるようなインフラの整備（トイレ、雨天時の避難場所など） ・市の広報の限界を考慮した伝わるメディアの選択（タウン誌やSNSの活用） 	<p>第5章将来像の実現に向けた4つの取組方針と具体的取組では、市民の森の広報にあたっては、マナーやトイレの位置を示したガイドマップの作成等を行っていくとしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
76	<p>地域における子どもたちとの交流において学校の果たす役割は大きいですが、例えば、長年の交流が校長の交代などで中断されることもある。教育委員会にも持続性のある環境意識の啓発努力が求められる。</p>	<p>地域における子どもたちとの交流において学校の役割は大きいと考えております。生物多様性や地球温暖化など環境教育に関する指導者への支援や、小学校等で身近な体験から持続可能な社会を考える環境教育の取組を進めていきます。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

77	<p>現状と目標の比較が、ほとんど「推進」で事実上内容が変わらない。現状については、まず客観的に評価し、目標については、評価を踏まえて新しい政策を組み込むべきではないか。単なる継続活動では意味がない。</p>	<p>生物多様性の保全・再生・創造の取組を進めるためには、市民・企業・学校など各活動主体による実践が不可欠であり、各主体間の有機的な連携や、より一層の活性化が求められます。</p> <p>市民・企業・学校など更なる活動の広がりを考慮したことや、数値や数量で表すことが困難な事業は推進と記載しております。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
78	<p>「森の楽しみづくり」について、ここ数年来、つながりの森の趣旨を単なる集客イベントの口実にしてきたと思わざるを得ない間違いを繰り返さないように、遊びやイベントに走らない、生物多様性の保全意識に裏づけられた事業の推進を求める。</p>	<p>「重点アピール1・bープロモーション」では、保全と利用のバランスを常に配慮しながら普及啓発を進めることとしています。森に関わるきっかけや広報活動を展開し、森に関わる第一歩としてもらうことを目指します。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
79	<p>「森に関する情報発信」におけるウェルカムセンターの役割をよく認識した運営を求めたい。</p> <p>例えば、横浜自然観察の森では、市の他の施設の情報はあつもの、円海山緑地周辺の市民活動や観察の森以外の生きもの情報はあまり発信されていない。自らの施設情報だけでなく、地域の情報センターという意識を更に高めるべきであり、ウェルカムセンターの設置場所だけがその施設や機能を楽しめるということにならないようにすべきである。</p>	<p>第5章将来像の実現に向けた4つの取組方針と具体的取組では、ウェルカムセンターは展示解説や自然体験、環境学習の機会の提供等を行い、市民の皆様が森についての理解を深める取組を進めていく施設です。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
80	<p>「森を支えている活動団体のつながりの強化」は、森の情報発信にもつながると考える。ただ、行政が一方的に行う研修、交流の場、というよりも市民の自主的なネットワーク作りを行政支援するという形が望ましい。</p>	<p>第5章将来像の実現に向けた4つの取組方針と具体的取組では、森を支えている活動団体のつながりの強化のため、森を支えている活動団体が参加し、情報交流、意見交換できる場を設けるとしています。団体同士の自主的なネットワークづくりのきっかけを提供し、市民主体の保全活動の推進につなげていきます。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

81	<p>「横浜市および国内に生息する希少動物の保全の取り組み」については、まず横浜のレッドデータブックを暫定であっても早期に整備して、例えば、横浜最後の生息地となった瀬上沢のカヤネズミのような緊急性ある希少種保護に取り組むべきである。</p>	<p>希少動物の保護・繁殖の取組として、市内に生息するカエル等の動物種の飼育や生物多様性に関する研究を行なうことで、「横浜つながりの森」での動物保全、啓発活動に貢献するとしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
82	<p>「アライグマ・タイワンリスによる被害への対策」は、局所的対策でなく、つながりの森全域で、かつ継続的な捕獲、駆除を、市民も巻き込む形で実施すべきである。</p>	<p>第5章将来像の実現に向けた4つの取組方針と具体的取組では、アライグマやタイワンリスによる被害への対策として捕獲支援の取組を進めるとともに、外来種としての普及啓発を進めることとしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
83	<p>生物調査データの継続的な蓄積と活用について、このタイトルは評価するが「産学官民の連携」など抽象的で、具体的に、誰が、という主語が見えない。それ以上に、このタイトルを冠するのであれば、バーチャルであっても「自然史博物館」の機能を実現する、と宣言すべきではないか。</p>	<p>「重点アピール2・ヨコハマ生き物探検」では、国や市民団体などによる生き物調査を含め、データバンクによる情報の一元化を進めることとしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
84	<p>「企業とのコミュニケーション」の企業との対話の中で、その地域における市民団体の環境保全活動との連携などもテーマにして、行政として市民活動を支援いただきたい。</p>	<p>「重点アピール1・b ープロモーション」では、生物多様性に積極的に取り組んでいる市民団体・企業の活動をさらに活性化し、様々な活動と連携してもらうため、また、さらに多くの市民団体・企業に取り組んでもらうため、表彰制度や情報交流の場の提供により活動をサポートしていくとしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
85	<p>地元サイエンスフロンティア高校との連携について、盛り込んでいただけると嬉しい。</p>	<p>普及啓発にあたっては、多岐にわたる分野との連携によりきっかけづくりを幅広く行うこととしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

■市役所の率先行動

No.	意見の概要	意見に対する考え方
86	生物多様性を語りながら、その保全からはずれた政策や事業を体感すると、行政に対する信頼感が揺らいでしまう。小さなことでも、生物多様性の意識がよく浸透しているな、と感じられる政策から着実に進めて、信頼を回復してほしい。	区等と連携し、横浜の森プロモーションなどの取組を進めていきます。横浜市 ISO 環境マネジメントシステムに反映させ、市役所全体で生物多様性の取組を進めます。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。

■その他

No.	意見の概要	意見に対する考え方
87	生物多様性について考えると、家の周りの生物を、あまりみかけなくなった。	都市化が進む市街地では、生き物の生息・生育環境が失われつつありますが、積極的な取組を推進することで、生き物を呼びもどすことも可能であると考えます。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。
88	生物多様性について考えると、生物多様性を守る上で、化学薬品を下水に流さないようにする	下水道の普及や工場からの排水の規制等により河川の水質が大幅に改善され、かつて横浜の川で見られた多くの生き物が戻ってきています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。

④その他、生物多様性横浜行動計画（ヨコハマ b プラン）との関係が見られないもの

■その他

No.	意見の概要	意見に対する考え方
89	この計画は小さな自治体でも策定して欲しいです。	横浜市は、全国の自治体が相互に生物多様性の保全や持続可能な利用に関する取組、成果について情報発信等を目的とした「生物多様性自治体ネットワーク」の幹事を努めています。今度も、他の自治体と連携し、取組を進めていきます。